

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目 / 全 2 枚)

氏 名 辰 川 志 郎

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
1	<p>(1)</p> <p>① 株式会社加賀ふるさとでんきについて 業務について 業務の継続性について 加賀市総合サービス株式会社では令和4年6月末をもって電力の小売りから撤退するとのことであったが、現在も株式会社加賀ふるさとでんきの所在地は以前と変わらず、加賀市総合サービス株式会社の中にあり、役員も社長が北陸電力株式会社の社員に替わっただけで、業務も以前と同じ社員が行っていることから、ほとんどが、前の加賀市総合サービス株式会社と変わっていない。これでは看板を付け替えただけで、業務は以前と全く変わらず、実際には電力小売り業務から撤退したとは言えないように思われるが、このことについて所見を問う。</p> <p>② 出資割合の妥当性等について 法人の資本金は500万円であり、出資割合は北陸電力会社が52%、加賀市が40%、加賀市総合サービス株式会社が8%となっているが、資本金の金額と出資割合は妥当なものであるのかを問う。また、利益が出たときの配分方法と損失が生じたときの責任の所在についても問う。</p>	
	<p>(2)</p> <p>事業継続の必要性について 平成28年の電力小売り自由化により、一時は750社を超える新電力会社が存在したが、現在は液化天然ガス(LNG)、石炭等の価格が上昇し、直接市場価格に反映するため、業務を継続することが困難となり、撤退や倒産する事業者が相次いでいる。 自前の発電装置を持たない加賀市総合サービス株式会社の電力事業もこれに当たるのではないか。 なぜ、この時期に法人の看板をすり替えてまで電力の小売り事業を継続しなければならないのかを問う。</p>	
	<p>(3)</p> <p>株式会社加賀ふるさとでんきの契約件数と売上げ計画について 令和3年度の加賀市総合サービス株式会社の実績は、年間供給量は25,079メガワットアワーで、販売電気料金は5億1,675万5,000円であった。 契約口数は、令和4年5月末時点で、高圧4件、低圧37件であったが、現在の株式会社加賀ふるさとでんきの契約件数の実績と今後の売上げ目標について問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 辰川 志郎

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
	(4)	<p>電気料金について</p> <p>株式会社加賀ふるさとでんきでは、本年5月31日までの、それぞれ1か月分の使用量が、一般家庭向けで230キロワットアワー、小規模商店向けで710キロワットアワー、工場向けで480キロワットアワーの場合に、電気料金がどれだけになるのかを問う。また、6月1日以降は北陸電力株式会社でも大幅な値上げとなるが、株式会社加賀ふるさとでんきではどれだけの値上げ幅を見込み、それぞれの区分での月額料金と売上高を目標としているのかを問う。</p>	
2	(1)	<p>加賀市総合サービス株式会社の借入金返済について</p> <p>返済計画について</p> <p>約1億8,000万円の借り入れをし、月々約200万円を8年間にわたり返済するとのことであるが、その資金源について問う。</p>	
	(2)	<p>今後の方針について</p> <p>今後は株式会社ではなく、利益を追求しない法人に変更する必要があると考えるが、その計画の有無について問う。</p>	